

虫遊戯

最終話

千葉哲太郎

その虫は人間で遊び、
快楽を貪る

試し読み版





やあ三崎さん
いらっしやい

ああ桐さん
お久しぶり
です



あの蠅螂の様子は
どうでしょう

ええ
元気にやつてる
様です

遺伝子工学
研究所所長 桐



いえ娘も最近
僕の趣味を認めて
くれる様
になりました



娘さんはあまり
こういう物に
興味がないと
伺った気が…

そうだ！
今度娘も連れて
来ていいですか



それにしても
すごい施設
ですね

いやいや
大した物では
ありませんよ



いえね虫を
ケージから出すと
必ず娘の方へ
向かうんですよ

ほう…
それはどういう
事でしょうか

そう言えば
虫も動物みたいに
人間に
懐くんですかね



三崎さんは
群れが産み出す
知性…と言う言葉は
ご存知ですか

は…いえ
あまり専門的な
事は…



それも一匹二匹
じゃなく大半の
虫が種類問わず

ふむ…

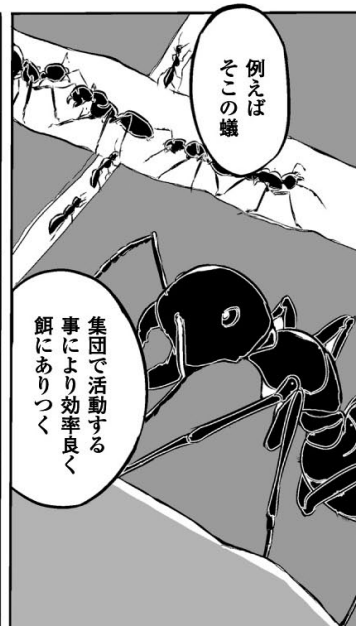


違う種で
共通の認識を
持つ…というのは
面白いですね



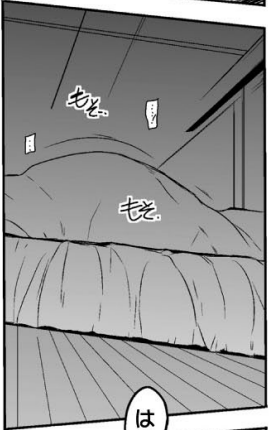
まあ同じ
仲間同士での
話ですが…

個々が学習し
全体による目的の
最適化をするんですね



例えば
そのこの蟻

集団で活動する
事により効率良く
餌にありつく





虫達も人間の
味を占めたのか…

隙を見ては
部屋に忍び込み
遊んで行きます



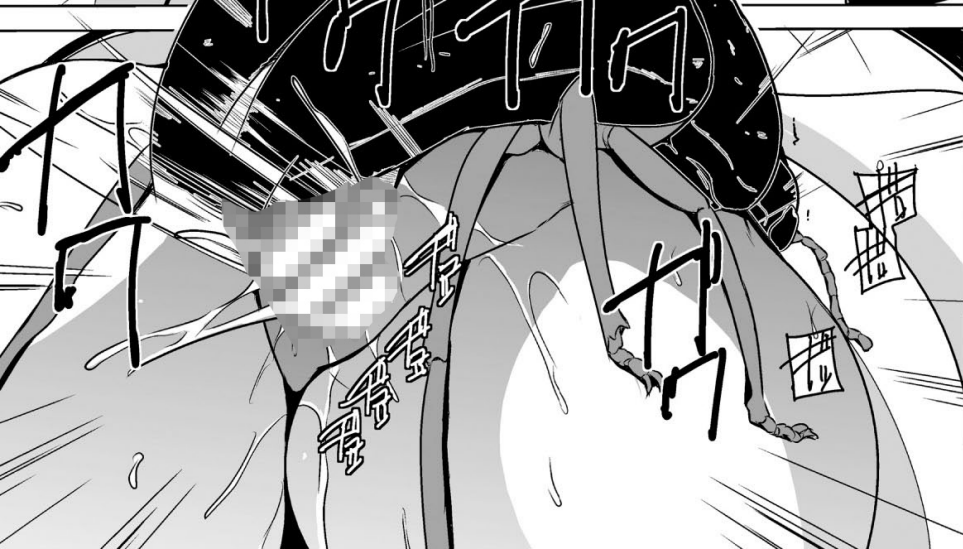
虫にとって私は
好きに使える
オオチャなんだ
ろうな…



んっっ



虫は代わる代わる
オモチャ
小夜子を使う







んん

?!



あ...う

ちんちん

こつして虫共は
毎晩種付けに
励みます

んん

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>